

|| 2026年2月期 第2四半期（中間期）決算説明会文字起こし・質疑応答 ||

株式会社 J R C

6224 東証グロース市場

[企業情報はこちら >>>](#)

[紹介動画はこちら>>>](#)

2025年10月27日（月）



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.io>

■ 目次

■ 中間決算説明会を受けての FISCO アナリストコメント	-----	1
■ 出演者	-----	2
■ 中間決算説明	-----	3
■ 質疑応答	-----	17

■ 中間決算説明会を受けての

F I S C Oアナリストコメント

- ・ 2026年2月期 第2四半期(中間期)決算は、期初予想から上方修正された事前想定にほぼ近いところでの着地となった。
- ・ 高橋汽罐工業、向井化工機の完成工事が第1四半期に集中する上期計画のなか、第2四半期に完成予定の工事も第1四半期に前倒しとなり、2Qのみだと減少しているが、前期比で2割超の増収増益に向けて順調に推移している。
- ・ これまでの成長スピードはもちろん、前期から2028年2月期、もしくは10年後の営業利益CAGRの2割強の増加であることを考慮すれば、2028年2月期中計達成時におけるPER25倍も視野に入り、その株価は現状の約2倍となる3,000円程度も試算される。製造業を中心とした連続M&Aをてがける企業並みのPERとなれば、さらに上の株価が視野に入ることとなる。なお、長期ビジョン達成時のPER15倍は、現状の6.5倍となる。

■ 出演者

株式会社 J R C
代表取締役社長

浜口 稔 様

■ 中間決算説明



株式会社 J R C 代表取締役社長の浜口でございます。

10月15日に公表しました2026年2月期 第2四半期(中間期) の決算についてご説明いたします。

2026 年 2 月期 第 2 四半期 (中間期) 決算説明資料

JRC
5500

会社情報

会社名	株式会社JRC (英文社名 JRC Co., Ltd.)
本社所在地	大阪本社 大阪市西区阿波座 2-1-1 CAMCO西本町ビル5F 東京本社 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 ミューザ川崎セントラルタワー 24F
代表者	代表取締役社長 浜口 稔
創業	1961年4月(浜口商店 創業)
設立	1991年3月(株式会社JRC)
資本金	167,944千円(2025年8月31日現在)
従業員	459名(連結) (2025年2月末現在)
事業内容	コンベヤ部品の設計・製造・販売及びコンベヤ設備の運用改善・メンテナンス 環境プラントのコンベヤを中心としたマテハン機器の設計・製造・据付・メンテナンス ロボットを活用した自動設備などの設計・製造・販売
グループ会社	JRC C&M株式会社 向井化工機株式会社 (JRC C&M子会社) 株式会社高橋汽機工業 吉又希商事(蒲田)貿易有限公司 JRC IFM Co., Ltd. (持分法適用関連会社)

企業スローガン

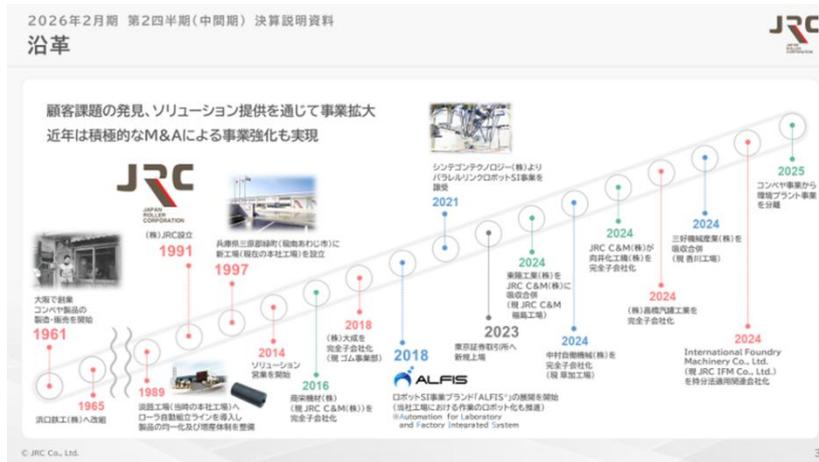
発見を、発展へ

Discovery to Development

すべては現場を基本としたリアルから見出し、
まだお客様にない視点での**課題の「発見」**から、
不をなくすソリューションを通じて
「発見」(JRC・お客様・社会)へと繋げていく意志を
『発見を、発展へ』という
企業スローガンとして表明しています。

© JRC Co., Ltd. 2

当社は「発見を、発展へ」を企業スローガンとして、ニッチトップ・リカーリングなコンベヤ事業と、
自社一貫の対応力を誇る環境プラント事業、製造業としての経験やノウハウを活かしたロボットSI事業の
3つの事業を展開しております。



1961年の創業以来、「お客様の課題を解決し、社会に貢献する」という考え方を貫き、顧客課題の発見と、その顧客課題に対するソリューションの提供を通じて事業を拡大してまいりました。
近年では、積極的にM&Aを実施し、業容を拡大し続けております。



こちらは、1991年の設立から現在までの業績の推移です。
これまで国内外において、様々な景況感のなかで事業を展開してまいりましたが、一貫して営業黒字を継続しており、景気耐性の強いビジネスモデルを確立しております。

2026年2月期 第2四半期(中間期) 決算説明のポイント



ここからは、2026年2月期 中間期決算についてご説明いたします。

まずは決算説明のポイントをご覧ください。

2026年2月期 第2四半期(中間期)決算説明資料 

決算説明のポイント

第2四半期(中間期)実績	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年7月15日に公表した中間期連結業績予想の修正に対し、概ね計画どおり進捗 ・新規M&A案件として、2025年9月18日にセイコーテック社の全株取得を決議
コンベヤ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベヤ部品：新設・更新案件が踊り場となるも、ソリューション・リプレイスが引き続き好調 ・高橋汽罐工業：工事完成時期の影響で四半期収益に山谷が生じるも、累計では好調に推移
環境プラント事業	<ul style="list-style-type: none"> ・JRC C&M：前年同期のような高収益案件がないなか、基幹改良工事も狭間の年度となる ・向井化工機：計画外の大型案件を獲得するものの、下期以降に完工予定
ロボットSI事業	<ul style="list-style-type: none"> 受注遅延による期ズレが生じるものの、複合ライン提案による大型案件の増加やコストコントロールにより、収益性が高まる
2026年2月期連結業績予想	売上高13,663百万円(+23.5%)、営業利益1,728百万円(+25.5%)、経常利益1,713百万円(+21.8%)、当期純利益1,147百万円(+6.4%)を計画し、5期連続の増収増益を目指す

© JRC Co., Ltd. 6

中間期決算のポイントとしましては、コンベヤ部品、ロボットSI事業が堅調に推移するなか、メンテナンスや工事施工が主な事業内容であります高橋汽罐工業や向井化工機において、第2四半期に完成する工事が少ない計画であったことや、一部の完成工事が第1四半期に前倒しとなったことなどにより、四半期業績に大きな山谷が生じましたが、中間期の連結業績としましては、7月15日に公表しました中間期連結業績予想の修正に対し、概ね計画どおりの進捗となりました。また、新たなM&A案件としまして、9月18日にセイコーテック社の全株式取得による子会社化を決議いたしました。

2026年2月期 第2四半期(中間期) 決算概要



それでは、2026年2月期 中間期における連結業績および各セグメントの業績をご説明いたします。

2026年2月期 第2四半期(中間期) 決算概要			
第2四半期(中間期)連結業績ハイライト			
売上高	前年同期比(増減)	事業計画	達成率
6,326 百万円	+27.8% (+1,377百万円)	6,336 百万円	99.8%
営業利益	前年同期比(増減)	事業計画	達成率
904 百万円	+38.9% (+253百万円)	917 百万円	98.6%
M&A費用の 除く営業利益	918 百万円	+32.3% (+224百万円)	100.1%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2025年7月15日に公表した中間期連結業績予想の修正に対し、概ね計画どおり進捗 ・ 新規 M&A案件として、2025年9月18日にセイコーテック社の全株取得を決議 			

中間期の連結業績のハイライトとしましては、前期M&Aによる業績寄与により、売上高は前年同期比27.8%増加、営業利益は同38.9%増加となりました。

中間期の修正計画に対しては、四半期業績に山谷は生じたものの、売上高の達成率が99.8%、営業利益の達成率が98.6%となり、概ね計画どおりの進捗となりました。

なお、第1四半期に計画外のM&A費用1千4百万円を計上しておりますので、こちらを除きますと、営業利益の達成率が100.1%となります。

また、新たなM&A案件として、セイコーテック社の全株取得による子会社化を決議いたしました。



四半期会計期間の連結業績につきましては、ご覧いただきますとおり、第1四半期と第2四半期の営業利益に大きな山谷が生じております。

この要因としましては、上期事業計画の内訳として、工事会社である高橋汽罐工業と向井化工機の完成工事が第1四半期に集中していたことと、中間期業績予想の修正要因である高橋汽罐工業の第1四半期の計画外工事の計上と、第2四半期完成予定の工事の前倒しなどが重なったことで、第1四半期に営業利益が偏重いたしました。

2026年2月期 第2四半期(中間期) 決算概要
連結損益計算書

	2025年2月期					2026年2月期			累計前年同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	
売上高	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	3,394	2,931	6,326	+27.8%
売上総利益	829	957	1,126	1,085	3,999	1,401	894	2,296	+28.5%
売上総利益率	35.2%	36.9%	38.0%	34.5%	36.1%	41.3%	30.5%	36.3%	+0.2Pt
営業利益	254	396	360	364	1,375	698	206	904	+38.9%
営業利益率	10.8%	15.3%	12.1%	11.6%	12.4%	20.6%	7.0%	14.3%	+1.1Pt
経常利益	258	407	365	373	1,404	670	198	869	+30.5%
当期純利益	245	278	221	332	1,078	516	112	629	+20.2%
EBITDA	311	457	424	455	1,647	802	312	1,114	+45.0%

※株式会社高橋汽罐工業との企業統合について前連結会計年度末に暫定的な会計処理を行っておりましたが、当中間連結会計期間に確定したため、前連結会計年度末との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の数値を用いております

© JRC Co., Ltd. 6

以上の結果、2026年2月期 中間期連結業績は、

- 売上高 63億2千6百万円 (前年同期比 +27.8%)
- 営業利益 9億4百万円 (前年同期比 +38.9%)
- 経常利益 8億6千9百万円 (前年同期比 +30.5%)
- 当期純利益 6億2千9百万円 (前年同期比 +20.2%)

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーム)をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

となりました。

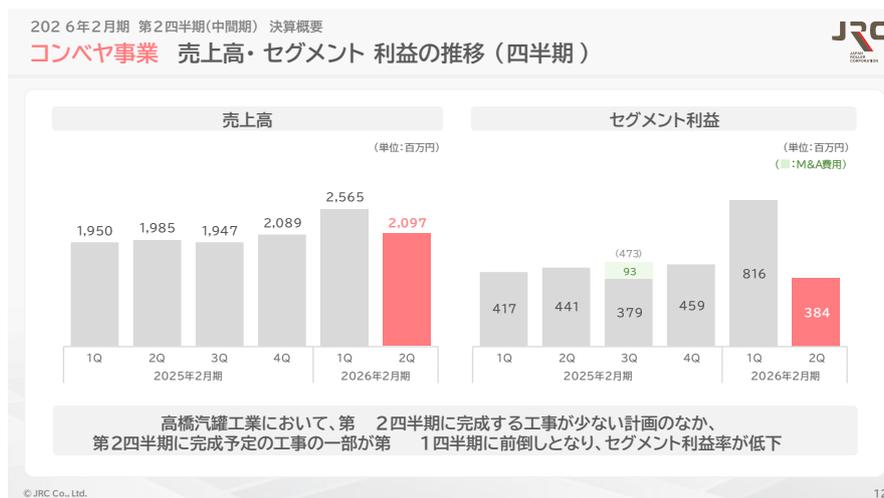


次に、セグメント別業績についてご説明いたします。

コンベヤ事業の中間期業績のハイライトとしましては、コンベヤ部品につきましては、新設案件や更新案件が踊り場となりましたが、ソリューションやリプレイスにつきましては、引き続き好調に推移いたしました。

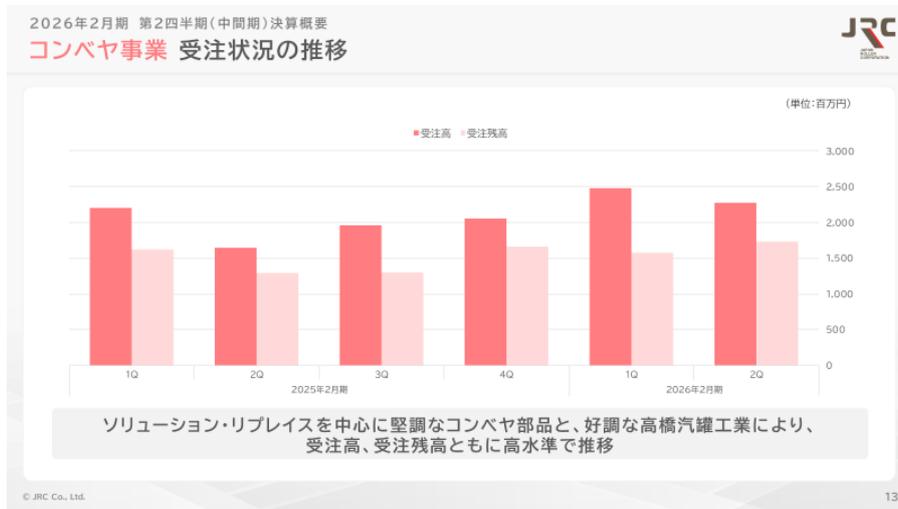
とりわけソリューションにつきましては、前年同期比で15.3%、計画比で6.8%の増加となり、KPIである売上高比率が26.1%まで高まりました。

高橋汽罐工業につきましては、先ほどのご説明のとおり、工事完成時期の影響で四半期業績に山谷が生じましたが、中間期の累計業績としましては好調に推移いたしました。その結果、売上高は前年同期比18.5%増加の46億6千2百万円、セグメント利益は同39.9%増加の12億1百万円となりました。



四半期会計期間の業績につきましては、高橋汽罐工業において、第2四半期に完成する工事が少ない計画のなかで、さらに一部の工事が第1四半期に前倒しとなったことで、31.8%であった第1四半期のセグメント利益率に対し、18.3%まで低下いたしました。

株式会社 JRC | 2025年10月27日(月)
6224 東証グロース市場 | <https://corp.jrcnet.co.jp/ir/>



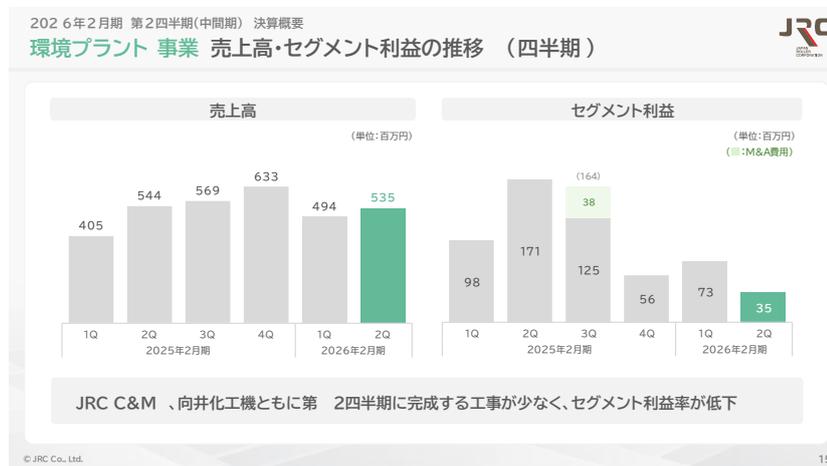
第2四半期の受注状況としましては、好調なソリューションやリプレイスを中心に、堅調なコンベヤ部品と、好調な高橋汽罐工業により、受注高、受注残高ともに高水準で推移しております。



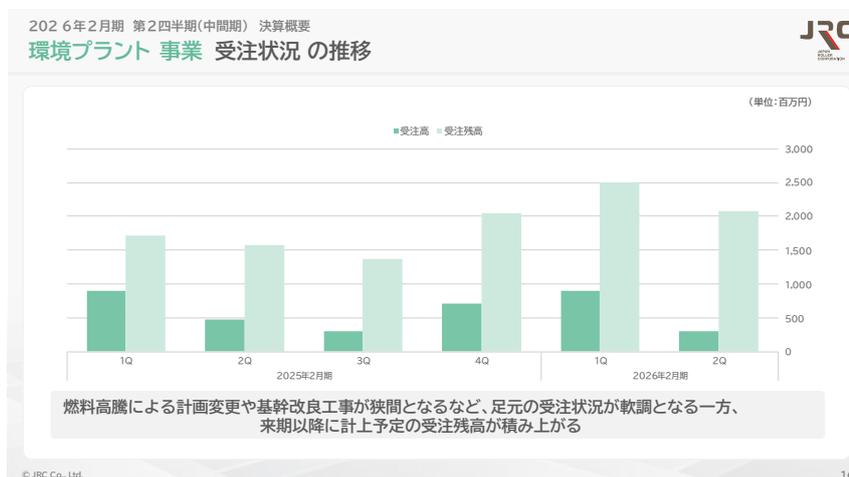
次に、環境プラント事業の中間期業績のハイライトとしましては、JRC C&Mにつきましては、計画外の海外大型案件の計上により非常に好業績であった前年同期に対し、当中間期は同様の突発案件がないなかで、エンドユーザーから定期的に獲得する基幹改良工事が今期は工期のタイミングなどにより狭間の年度となりました。

向井化工機につきましては、計画外の大型案件を獲得するなど、好調に推移しておりますが、下期以降の工事完成、収益計上となります。

その結果、売上高は前年同期比8.5%増加の10億2千9百万円、セグメント利益は前年同期比59.9%減少の1億8百万円となりました。



四半期会計期間の業績につきましては、JRC C&M、向井化工機ともに第2四半期に完成する工事が少なかったことから、14.8%であった第1四半期のセグメント利益率に対し、6.6%まで低下いたしました。



第2四半期の受注状況としましては、燃料高騰による顧客のメンテナンス計画の見直しや、基幹改良工事が狭間となるなど、足元の受注状況としましては厳しいものではありませんが、来期以降に計上予定の受注残高を積み上げております。

株式会社 JRC | 2025 年 10 月 27 日 (月)
6224 東証グロース市場 | <https://corp.jrcnet.co.jp/ir/>

M & Aについて 環境プラント事業
株式会社セイコーテック

2025年9月18日
全株取得を決議
(子会社化予定)

SEIKOTEK

総合的な施工対応力が強み

ごみ処理施設・水処理施設内のプラント機器や公共上下水道設備における機器据付、更新・修繕、ボイラ・配管・付帯設備などの各種工事に対応

狙い・シナジー効果

- 全国展開×エリアカバー強化
JRCグループの営業網による全国展開
東西エリアを相互連携
- 収益機会獲得
幅広い工程のワンストップ対応
プレゼンス向上による高収益案件獲得
- 事業拡大・収益力強化
工事人財の確保
現場技術の共有

ワンストップ体制と隣接領域を含めたトータルエンジニアリングの強化を目指す

© JRC Co., Ltd. 17

なお、環境プラント事業における新たなM&A案件として、9月18日にセイコーテック社の全株式取得による子会社化を決議いたしました。

セイコーテック社は、2003年の設立以降、ごみ処理施設や水処理施設内のプラント設備や公共の上下水道設備などへの機器据付、更新、修繕などに加え、同施設内のボイラや配管、タンクなどへの各種工事を手掛けております。

セイコーテック社の当社グループへの参画により、現場施工力の強化、既存顧客へのクロスセル、アップセルなど、さらなる事業成長を目指してまいります。

2024年2月期 第2四半期(中間期) 決算概要
ロボットSI事業 第2四半期(中間期) 業績ハイライト

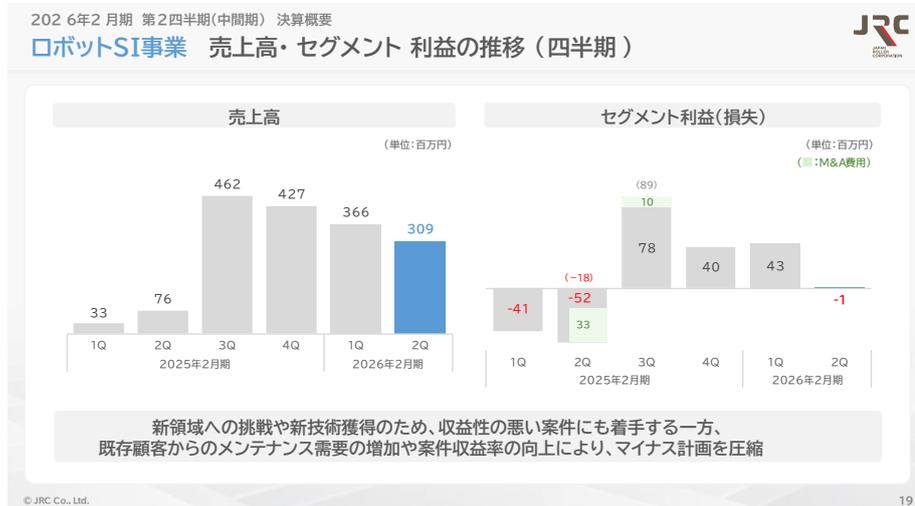
売上高	前年同期比(増減)	事業計画	達成率
676百万円	+518.7% (+567百万円)	748百万円	90.4%
セグメント利益	前年同期比(増減)	事業計画	達成率
42百万円	+136百万円 (前年同期は△93百万円)	19百万円	219.1%
M&A費用を 除く営業利益	—		

受注遅延による期ズレが生じるものの、複合ライン提案による大型案件の増加やコストコントロールにより、収益性が高まる

© JRC Co., Ltd. 18

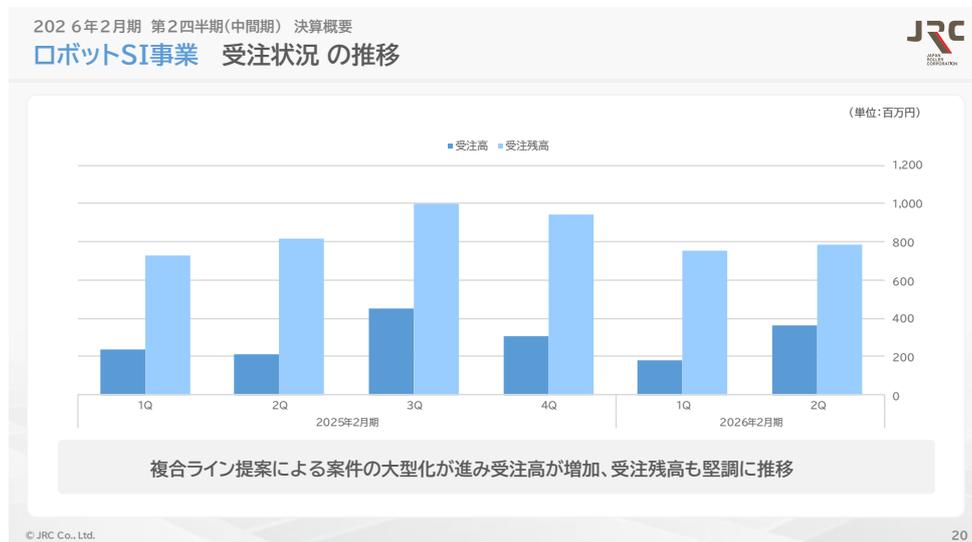
次に、ロボットSI事業の中間期業績のハイライトとしましては、売上高に受注遅延による期ズレの影響が生じたものの、複合ライン提案による大型案件の増加やコストコントロールにより、事業規模や収益性など、前年同期と比べて大きく成長いたしました。

その結果、売上高は前年同期比518.7%増加の6億7千6百万円、セグメント利益は前年同期比1億3千6百万円増加の4千2百万円となりました。



四半期会計期間の業績につきましては、新たな領域に挑戦するとともに、新たな技術の獲得に向け、他の案件に比べて難易度が高く、工数の増加が想定される新規大手食品メーカー向けの大型案件を計画のうえ、着手いたしました。

一方、利益率が高いメンテナンスの構成比が高まるとともに、案件が大型化したものの、コストコントロールを徹底したことで当初1千2百万円のマイナス計画から1百万円のマイナスに圧縮いたしました。



第2四半期の受注状況としましては、複合ライン提案による案件の大型化が進み、受注高が増加いたしました。

受注残高につきましても、堅調に推移しております。

2026年2月期 第2四半期(中間期) 決算概要
セグメント業績

(単位:百万円)

	2025年2月期					2026年2月期			前年同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	
売上高	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	3,394	2,931	6,326	+27.8%
コンパネ事業	1,950	1,985	1,947	2,089	7,972	2,565	2,097	4,662	+18.5%
環境プラント事業	405	544	569	633	2,152	494	535	1,029	+8.5%
ロボットSI事業	33	76	462	427	999	366	309	676	+518.7%
調整額	△32	△12	△10	△4	△60	△31	△11	△43	+2百万円
営業利益	254	396	360	364	1,375	698	206	904	+38.9%
(率)	10.8%	15.3%	12.1%	11.6%	12.4%	20.6%	7.0%	14.3%	+1.1Pt
コンパネ事業	417	441	379	459	1,697	816	384	1,201	+39.9%
(率)	21.4%	22.2%	19.5%	22.0%	21.3%	31.8%	18.3%	25.8%	+4.0Pt
環境プラント事業	98	171	125	56	451	73	35	108	△59.9%
(率)	24.3%	31.5%	22.1%	8.9%	21.0%	14.8%	6.6%	10.5%	△17.9Pt
ロボットSI事業	△41	△52	78	40	25	43	△1	42	+136百万円
(率)	-	-	17.0%	9.6%	2.6%	11.9%	-	6.3%	-
調整額	△219	△163	△223	△192	△799	△235	△212	△447	△64百万円

© JRC Co., Ltd. 21

以上、調整額を含めたセグメント業績につきましては、ご覧のとおりとなりました。

2026年2月期 第2四半期(中間期) 決算概要
連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産	2025年2月末	2025年8月末	増減額	備考
流動資産	7,455	8,524	+1,069	主な要因: 現金及び預金の増加
固定資産	5,646	5,075	△570	
有形固定資産	3,547	3,528	△19	
無形固定資産	798	768	△30	うち、のれん405百万円
投資その他資産	1,300	779	△521	主な要因: 保険積立金の解約
資産合計	13,101	13,600	+498	
負債				
流動負債	5,657	5,877	+219	主な要因: 短期借入金金の増加
固定負債	2,829	2,477	△352	主な要因: 長期借入金の返済、繰延税金負債の減少
負債合計	8,487	8,354	△132	
純資産				
純資産合計	4,614	5,245	+631	主な要因: 資本金・資本剰余金の増加、利益剰余金の増加
自己資本比率	35.2%	38.6%	+3.4pt	

© JRC Co., Ltd. 22

次に、連結貸借対照表について、ご説明いたします。

第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて4億9千2百万円増加し、136億円となりました。

これは主に、現金及び預金10億6千9百万円の増加、投資その他の資産5億2千1百万円の減少によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて1億3千2百万円減少し83億5千4百万円となりました。

これは主に、短期借入金2億1千9百万円の増加、固定負債3億5千2百万円の減少によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて6億3千1百万円増加し、52億4千5百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は3.4ポイント上昇し、38.6%となりました。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーム)をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document

2026年2月期 第2四半期(中間期) 決算概要
KPI計画及び進捗

(単位:百万円)

		2025年2月期実績					2026年2月期			計画	進捗率
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期		
全社	売上高	2,355	2,593	2,968	3,146	11,064	3,394	2,931	6,326	13,663	46.3%
	営業利益	254	396	360	364	1,375	698	206	904	1,728	52.3%
	営業利益率	10.8%	15.3%	12.1%	11.6%	12.4%	20.6%	7.0%	14.3%	12.7%	-
	ROE	-	-	-	-	23.4%	-	-	-	22.8%	-
コンベヤ事業	ソリューション売上高	456	326	350	368	1,503	479	424	903	1,691	53.4%
	ソリューション売上高比率*	24.0%	16.9%	18.4%	20.6%	20.0%	27.4%	24.9%	26.2%	22.6%	-
環境プラント事業	受注高	897	471	305	709	2,384	893	303	1,197	3,100	38.6%
	セグメント利益	98	171	125	56	451	73	35	108	452	23.9%
ロボット SI 事業	受注高	237	212	448	304	987	182	364	547	1,600	34.2%
	セグメント利益	△41	△52	78	40	25	43	△1	42	73	57.3%

*ソリューション売上高比率 = 国内ソリューション売上高 ÷ 国内売上高

© JRC Co., Ltd. 23

2026年2月期のKPIにつきましては、全社業績は概ね計画どおり進捗するなか、コンベヤ事業は好調に推移、環境プラント事業は下期偏重の計画の影響を受け、ロボットSI事業は一部期ズレがあるものの好調に推移しております。引き続き、KPI達成に向けて取り組んでまいります。

2026年2月期 連結業績予想



次に、2026年2月期 連結業績予想についてご説明いたします。

2026年2月期 連結業績予想
2026年2月期連結業績予想

(単位:百万円)

	2024年 2月期実績	2025年 2月期実績	2026年2月期 予想(変更なし)	増減額	前年比 増減率
売上高	9,473	11,064	13,663	+2,599	+23.5%
コンベヤ事業	7,249	7,972	9,460	+1,487	+18.7%
環境プラント事業	1,542	2,152	2,645	+492	+22.9%
ロボット SI 事業	744	999	1,621	+623	+62.6%
調整額	△63	△60	△63		
売上総利益	3,213	3,999	4,693	+694	+17.4%
売上総利益率	33.9%	36.1%	34.4%	-	△1.7pt
営業利益	1,270	1,375	1,728	+350	+25.5%
コンベヤ事業	1,669	1,697	2,115	+418	+24.7%
環境プラント事業	258	451	452	0	+0.2%
ロボット SI 事業	5	25	73	+48	+194.4%
調整額	△662	△799	△912		
営業利益率	13.4%	12.4%	12.7%	-	+0.2pt
経常利益	1,273	1,404	1,713	+306	+21.8%
当期純利益	847	1,078	1,147	+68	+6.4%

© JRC Co., Ltd. 25

2026年2月期の連結業績について、業績は引き続き順調に推移するものと考えておりますが、下期に発生する可能性のあるM&Aやコンベヤ事業における海外進出にかかる計画外費用の発生を勘案し、期初に発表した予想を変更しております。具体的な費用が見積れる状況になりましたら、業績予想を修正のうえ、開示させていただきます。

2026年2月期の連結業績は、

売上高 136億6千3百万円
営業利益 17億2千8百万円
経常利益 17億1千3百万円
当期純利益 11億4千7百万円

とし、中期経営計画初年度として5期連続の増収・増益を目指します。

セグメント別業績につきましてはコンベヤ事業では

売上高 94億6千万円
営業利益 21億1千5百万円

環境プラント事業では、

売上高 26億4千5百万円
営業利益 4億5千2百万円

ロボットSI事業では

売上高 16億2千1百万円
営業利益 7千3百万円

とし、それぞれの事業においても過去最高の収益を目指します。

2026 年 2 月期 連結業績予想

株主還元



基本方針・配当予想

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、継続的かつ安定した配当を行うことを基本方針とし、連結配当性向 30%程度を目安に配当の実施を目指しております。

2026年2月期の配当金につきましては、1株当たり中間14円、期末14円の年間28円を予定しております。

	1株当たり配当金			
	中間	期末	年間	配当性向
2026年2月期(予想)	14円	14円	28円	30.8%
2025年2月期(実績)	13円	13円	26円	29.6%
2024年2月期(実績)	—	21円	21円	31.3%

© JRC Co., Ltd. 26

最後に、株主還元についてご説明いたします。

2026年2月期につきましても、継続的かつ安定した配当を行う基本方針のもと、引き続き、連結配当性向30%程度を目安に、配当の実施を目指しております。

2026年2月期の配当金につきましては、1株当たり中間14円、期末14円の年間28円を予定しており、増収増益に加えて、増配を目指しております。

説明は以上になります。

ご清聴、ありがとうございました。

■ 質疑応答

2026年2月期 第2四半期（中間期）決算説明会で頂いたご質問と回答

■ 全体

Q セグメントごとの足元の事業環境と今後の見通しについて説明いただきたい。

A コンベヤ部品につきましては、第2四半期は酷暑による熱中症対策により活動量が制限されたことから、86%のリカーリング部分が減少いたしました。現在は気温も下がり、第3四半期から復調するものと見ております。今後につきましては、コンベヤ部品はサプライチェーンともに国内事業であるため、トランプ関税などの外的要因には左右されず、安定するものと見ております。環境プラント事業につきましては、今期は毎年受注している基幹改良工事が端境期となり苦戦しております。しかしながら、基幹改良工事を含め、来期以降の受注残高が積み上がっており、事業としてダウントレンドではございません。

ロボットSI事業につきましては、人手不足を解消するための設備であることから、非常に多くの引き合いを頂いております。さらに、M&Aによるシナジー効果としての複合提案を行うことで、案件ごとの規模が大きくなり、顧客サイドでの稟議決裁の長期化により発注が遅れ、その結果当社の受注に遅れが生じております。

Q M&A案件はたくさん紹介されているのか。

A 上場後6件のM&A実績があり、案件詳細の公表も行っているため、仲介会社から日々提案を頂いております。特にプラント工事関連の会社を多くご紹介いただいております。そのなかから地域性やシナジー効果などが期待できる会社を選定しております。

Q 下期に発生する計画外費用を教えてください。

A M&A案件が進めばその仲介手数料や諸費用などが考えられます。またコンベヤ事業における海外展開の進捗により、計画外費用が発生する可能性があります。

Q 3セグメントの下期の受注動向について現時点でそれぞれの程度見えているのかについて教示いただきたい。特に環境プラントとロボットSIは通期の受注計画達成には下期にかなり挽回が必要に見えるが、上期対比でどのように受注が増加していくの教示いただきたい。

A コンベヤ事業につきましては、酷暑の影響で受注高が減少した月度もありましたが、足元では回復しております。環境プラント事業につきましては、今期は基幹改良工事の端境期であり苦戦しているものの、来期以降の受注残は積み上がっております。ロボットSI事業につきましては、複合提案による案件大型化の影響で受注にも期ズレが生じましたが、通期では受注残高を消化できれば計画達成は見えてくると考えております。

Q それぞれの事業のリードタイムを教えてください。新規、リピート、リカーリング、メンテナンス、それぞれのくらい前から商談がスタートするのか。どの段階で受注高に計上されるのか。

A コンベヤ事業のうち、コンベヤ部品につきましては、在庫品であれば当日出荷ができ、それ以外でも大型案件でなければ3か月程度で売上計上されます。高橋汽罐工業や向井化工機などの工事会社につきましては、3か月から6か月、長いもので1年くらいかかる案件がございます。ロボットSI事業につきましては、単一ラインであれば3~6か月、複合ラインであれば6か月~1年くらいかかります。

Q 株価下落を受け、自己株式取得を検討する予定はあるのか。

A 現時点では成長投資を優先しているため、自己株式取得などの予定はございませんが、今後として株式市場や当社業績等を勘案のうえ、検討いたします。

Q コンベア事業とロボット事業にはシナジーがあるのか？

A コンベア事業は主に屋外向けであり、ロボットSI事業は食品医薬業界が中心であるため、大きなシナジーはございません。コンベア事業における既存顧客に依存しない、異なる商流のビジネスを展開していくという考えのもとで、全く別物の事業として考えております。

Q 通期業績予想修正の予定はあるのか。

A 2026年2月期の連結業績につきましても、引き続き順調に推移するものと考えておりますが、下期に発生する可能性のあるM&Aによる費用や、コンベア事業における海外進出にかかる計画外費用の発生を勘案し、期初に発表した予想を変更していません。具体的な費用が見積ることができる状況になり、業績予想を修正する必要が生じた場合、修正のうえ、公表させていただきます。

■コンベア事業

Q コンベア事業における海外展開の業績インパクトはいつ頃から出てくるのか。

A まずは現地に工場を作り、設備を導入のうえ生産を開始できるように準備しなければなりません。工場稼働後の減価償却費などの負担感があるなかで、マーケットの開拓を行う必要があるため、業績寄与には3年くらいの期間が必要となる可能性がございます。

Q p12 (コンベア事業 売上高・セグメント利益の推移)を見ると、昨年度は、四半期平均して売上、利益が計上されていたが、今期は山、谷かなり大きく出たのはなぜか。過去10年振り返ると、どのような傾向か。

A 前期M&Aによりグループインいたしました、高橋汽罐工業ならびに向井化工機の完成工事が第1四半期に集中する計画であったことに加え、第2四半期に完成予定の工事の一部が第1四半期に前倒しとなり、大きな山谷が生じました。過去10年のトレンドといたしましては、従前はリカーリング性の高いコンベア事業専業であったことから、多少の波はあったものの安定的に推移しておりました。

Q コンベア事業については、第3四半期、第4四半期についても、山、谷かなり大きくでる見込みなのか。

A 第3四半期、第4四半期ともに高橋汽罐工業の完成工事を計画しているため、上期のような大きな山谷は生じないものと見ております。

Q コンベアの売上の山谷は先ほどの説明で理解できたが、利益は第1四半期を除いても、同程度の売上があった他の四半期に対して減っている。利益率まで低下した理由は。

A 第2四半期は、完成工事が少なかった高橋汽罐工業が赤字に振れているため、セグメントの内訳がコンベア部品だけで構成されていた前期に対して利益率が低くなっております。

Q P13 (コンベヤ事業 受注状況の推移) の受注高、受注残と売上との関係を教えていただきたい。その四半期の受注高のうちどの程度がその期の売上になるのか。また、受注残のうちどの程度が、すぐ次の四半期の売上に計上されるのか。

A コンベヤ事業のうち、祖業であるコンベヤ部品につきましては、リードタイムが短く、当月受注分を当月に売り上げる案件が3~4割程度、翌月にかかるものを含めると6~7割程度、それ以上のものが3割程度であるため、受注残高として溜まりにくい性質がございます。一方、高橋汽罐工業につきましては、数カ月程度の工期が基本ではあるものの、大型案件などは工期が1年程度かかるものもございます。

Q P13 (コンベヤ事業 受注状況の推移) の受注高について、四半期によって多少の上下があるが、どのような季節性があるのか。

A これまでコンベヤ事業では、受注に関しても比較的安定的に推移しておりましたが、昨今の酷暑による顧客における現場活動の停止の影響で、夏季の発注が減少する傾向がございます。

Q 以前、ソリューション営業を1割から2割のところを6割から7割へ上げると伺ったが、現在ではどのくらいの割合になっているのか？

A 今期のソリューション売上高比率につきましては、第1四半期は27.4%、第2四半期は24.9%、上期累計としては26.2%と、好調に推移しております。その背景としましては、前期より代理店とノウハウを共有し、当社製品をエンドユーザーに提案いただく取り組みを開始したことによるものです。今後におきましても、この動きがさらに加速していくものと期待しております。

■環境プラント事業

Q セイコーテックのM&Aによる業績寄与度を教えていただきたい。また、今まではM&Aする会社の売上・利益や金額を開示いただいていたと思うが、今回から非開示となった。今後もその方針なのか？

A セイコーテック社は、2025年9月18日に全株取得による子会社化を決議した段階であるため、業績寄与につきましては、子会社化が完了してからの算定となります。なお、今回のセイコーテック社のM&A案件は任意開示であるため、これまでの任意開示のM&Aにかかるプレスリリース同様、詳細についての開示はいたしておりません。

■ロボットSI事業

Q 現状のロボットSI事業の受注高は数億円規模だが、今後はさらに大きくなっていくのか。

A 基本的に、1ラインで10億円規模となるような案件の受注は考えておりませんが、大手食品メーカー各社におきましては、工場内に複数のラインを保有されているため、1社からの受注額の合計が10億円規模に拡大する可能性はございます。

Q ロボットSI事業の競争環境を教えてください。

A 市場環境としましては、1案件が数十億円規模のメガラインビルダーと、数千万円規模の地場SIerという構造になっており、当社が狙う1億円規模の案件とは競合しにくい環境であります。大手メーカーは、自動車や半導体などの標準化された超大型案件を得意としており、当社の規模はボリューム的に参入し辛く、また地場SIerは年間売上が数億円程度の規模であり、当社の1億円~2億円規模の案件はハードルが高くなっております。このような点で差別化ができております。

Q ロボットSI事業において、ボトルネックはないのか。

A 人手不足による自動化ニーズが高まるなか、設計者を数多く確保し育成していくことが一番大切であると考えています。当社では自動化システムの標準化を進めているため、設計者不足がボトルネックとなりうるものの、それを解消するための対策を講じております。

Q 設計者が少ない状況であれば、受注に対してブレーキを踏むことはあるのか。

A 採用強化やM&Aを通じて、設計者を確保しながら事業を進めているため、受注に対してブレーキを踏むことはございません。

Q ロボットSI事業の第2四半期単体の売上が四半期比で減少している背景と第3四半期以降の見通しを教えてください。

A 今期第2四半期につきましては、新領域や新技術獲得のためのチャレンジングな案件に取り組むため、一時的に収益性が低下する計画を立てておりました。第3四半期以降につきましては個別詳細の回答は差し控させていただきますが、足元の受注残高が消化できれば十分計画達成できると考えております。

株式会社 JRC | 2025 年 10 月 27 日 (月)
6224 東証グロース市場 | <https://corp.jrcnet.co.jp/ir/>

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062東京都港区南青山5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IRコンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp